

報道関係者各位

2013年10月1日  
森ビル株式会社

**アークヒルズ 仙石山森タワー**  
**「グッドデザイン賞」(産業・公共領域の建築、施設のデザイン部門)を受賞**  
～地域の生物多様性やコミュニティを生かした街づくり～

森ビル株式会社が管理運営する「アークヒルズ 仙石山森タワー」(東京都・港区、2012年8月竣工)が、この度、日本で唯一の総合的なデザイン推奨制度「2013年度グッドデザイン賞(産業・公共領域の建築、施設のデザイン部門)」(主催:公益財団法人日本デザイン振興会)を受賞いたしました。

グッドデザイン賞は、デザインの効果・効用、そのデザインが「くらしを、社会を、豊かにしうるのか」という視点から評価するもので、工業製品のほかにも、街や建築物、サービスやソフトウェア、コミュニケーション等、有形無形を問わず、人によって生み出されるあらゆるものや活動を対象としています。



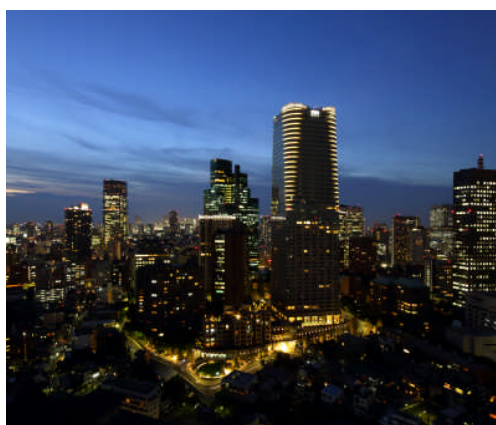
アークヒルズ 仙石山森タワーは、同賞において下記の点が評価され、受賞にいたりました。

■評価ポイント(評価者コメント)

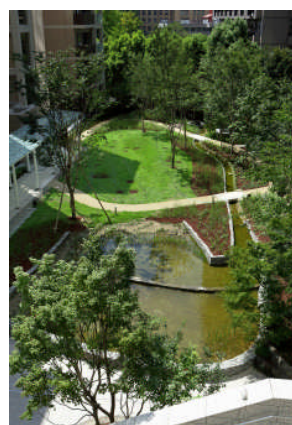
東京には、多数の超高層ビルが建ち並ぶ中、このタワーの高層部のコーナー部は、Rが付けられており都市に対して柔らかい表情を醸し出している。また、広域に渡るグリーンネットワークの中に、プロジェクトの低層部のランドスケープを位置づけ、生物多様性に配慮した緑あふれる空間をつくり、約30%の緑被率を実現し、まちづくりに貢献している。



アークヒルズ 仙石山森タワー( 昼景)



アークヒルズ 仙石山森タワー(夜景)



こげらの庭

森ビルは、「Vertical Garden Cityー立体緑園都市」をコンセプトに、緑豊かで地球環境にも優しい都市環境の創造に努めております。今後も、緑を増やす街づくりを積極的に推進し、首都東京のさらなる魅力向上に貢献してまいります。

【本件に関するお問合せ先】

森ビル株式会社 広報室 山岡、深野

TEL : 03-6406-6606 FAX : 03-6406-9306 E-mail : koho@mori.co.jp

《参考資料》

## ランドスケープデザイン

### 本来、この地に見られた在来種を復元

地域の環境をより良いものにするため、生態系のあり方も検討したうえで緑の量だけでなく緑の質の検討を行い、小鳥や昆虫などの生き物がやってくる街を目指しています。計画の実現には日本生態系協会の助言を受け、地域の自然に本来見られる在来の植物を多く植えています。その結果、2012年には生物多様性の保全や回復に資する取り組みを定量評価する認証である「JHEP 認証」(竣工時)において日本初となる最高ランク(AAA)を取得しました。



## コミュニティデザイン

### 地域交流を図る「まちの保育園」

「まちの保育園六本木」(認可保育園)を設置しています。保育者・保護者・まちの人がなす毎日の「対話」の中に保育の本質があるという考えの下、周辺地域と積極的に交流を図りながら、子どもたちを育てていくという特色のある保育園です。



### コミュニティの形成「街育プロジェクト」

コミュニティ形成の為に、地域と人たちとの街づくりで培ったさまざまな街づくりのノウハウを地域の方や未来を担う子供たちに実地体験してもらい楽しく学びながら、次世代の都市のあり方を共に考えていこうという試みを行っています。





## ファサードデザイン

### 元の地形(丘や坂)を活かした低層部、圧迫感の無い、空に溶け込む高層部

東京は高度経済成長の時代から面的な開発が広がり、多くの自然が失われてきました。今回の大規模開発を行うにあたり、「東京の未来像を描き継続的に維持出来る街」「世代を超えて受け継いでゆく街」を目指し、土地そのものが持つポテンシャルを最大限に活かし、住まい手、働き手が快適に生活を育む街の実現を目指しました。

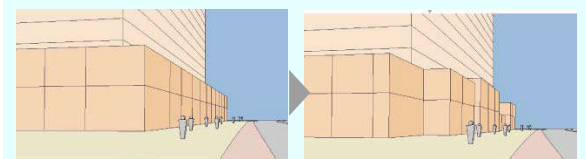
この開発コンセプトを具現化するにあたり、最も注力したことは「地形の特性を活かす」ということです。昔からの地形を残し、開発に積極的に取り入れることで、この街のアイデンティティを生み出すことに繋がりました。

### 土地や自然が持つポテンシャル+ヒューマンスケールの街づくりを具現化した建築デザイン

#### <低層部> 地形の特性を活かすデザイン

昔から丘や坂が多く、変化に富んだ地形であったこの街の土地の記憶を残し、周辺地域の住人の方々へ配慮するために、仙石山アーキヒルズの低層部では、周辺の住宅地のスケールと調和する街並みを目指しました。

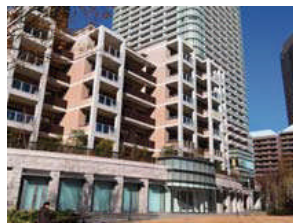
建物の分節によるスケールコントロールを行い、ヒューマンスケールの街並みを実現しています。また、緑豊かな大地、高低差のある地形の特性を活かし、大地の緑を立体的に連続させると共に、地形の形状を変えることなく建物を擦り付け、土地の記憶を継承しています。



低層基壇部をセットバックしたデザインにすることで、圧迫感を削減し、吹き下ろす風から歩行者を守ります。また、歩行者の視線に近い低層部の各箇所のスケール感を小さくすることで建物に複雑な表情を作りました。



沿道をセットバックさせ、歩行者に配慮



丘の地形をイメージして雁行する低層棟



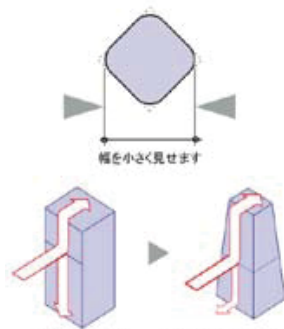
「坂」の地形をそのまま残した低層部



地表の緑を立体的に繋げる工夫

#### <中高層部> 住環境を快適にし、空に溶け込むタワーをデザイン

中層部から高層部にかけて、タワーコーナー部をR形状としビル風を軽減すると共に、上部に向かいタワーをすぼめてゆくことで、圧迫感を軽減し空に溶け込むタワー形状を実現しています



R形状のデザインによって、対角線から見た建物幅を小さく見せることに成功しました。また、建物の圧迫感を軽減させ、歩行者に吹き降ろす風環境を快適なものにしました。



デザイン検討模型 / 多数のデザインを検討